

シプロキサン®注の投与を受けられる小児の患者様とご家族の方へ

シプロキサン®注による小児の関節障害について

シプロキサン®注は、感染症の治療に有用なおくすりで、小児には複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、炭疽、また、囊胞性線維症における緑膿菌による呼吸器感染に伴う症状の改善に用いられます。このおくすりの投与を受けた小児の患者では、関節障害があらわれることがあります。

シプロキサン注®の投与後に、関節の痛みや腫れがあらわれた場合には、処方医に連絡し症状を伝えてください。
投与後しばらくたって症状が出る場合もありますので、注意してください。

連絡先(医療機関記入欄)

--

<よくあるご質問>

<p>関節障害とはどのような症状ですか？</p>	<p>膝、肘、手首、かかと、肩、股関節などに痛みや腫れがあらわれる場合があります。</p>
<p>関節障害はおくすりを投与してどれくらいの時期に起こりますか？</p>	<p>くすり*の投与を開始した後、数日中に発現する例もあれば、投与終了してから1か月以上経過した後に発現した例もあります。 (*有効成分シプロフロキサシンを含む製剤)</p>
<p>関節障害はなぜおこるのですか？</p>	<p>シプロキサン®注はニューキノロン系に分類される抗菌薬です。ニューキノロン系抗菌薬では、幼若動物へ投与した場合に関節異常が認められていますが、そのメカニズムは分かていません。</p>
<p>関節障害がおこったときにはどのようにしたらよいですか？</p>	<p>臨床試験で関節障害が認められた例は、ほとんどは軽い症状で、短期間で症状が改善しました。しかし、症状が重い場合や長引く場合には、注意が必要です。シプロキサン®注の投与後に、関節の痛みや腫れがあらわれた場合には、処方医に連絡し症状を伝えてください。</p>